令和4年度

地域歯科衛生活動事業助成実施報告書



















令和5年4月 公益社団法人日本歯科衛生士会 地域歯科保健委員会

公益社団法人日本歯科衛生士会 令和 4 年度地域歯科衛生活動事業助成交付要項

1 目 的

地域住民の歯科口腔保健の向上に関する事業をより一層推進するため、申請団体等の地域歯科衛生活動に対して30万円を上限として助成金を交付する。

本助成は「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定・公布(平成 23 年 8 月 10 日)を 記念し、平成 24 年度から実施する。

2 対象団体

- (1)「地域歯科衛生活動」事業を主催事業(共催等含む)として実施する都道府県歯科衛生士会。
- (2)日本歯科衛生士会が指定する対象事業を、主催事業(共催等含む)として実施する団体または関係機関。

3 対象事業

地域住民の歯及び口腔の健康づくり、生涯を通じた歯科疾患の予防、口腔機能の維持・ 向上等、歯科口腔保健の推進に寄与する事業であること。

事業項目は、次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 母子歯科保健に関する事業
- (2) 学校歯科保健に関する事業
- (3) 事業所歯科保健に関する事業
- (4) 成人歯科保健に関する事業
- (5) 障害(児)者歯科保健に関する事業
- (6) 高齢者・要介護高齢者の歯科口腔保健に関する事業
- (7) 食育推進に関する事業
- (8) 多職種連携・協働による歯科口腔保健・口腔ケア推進事業
- (9) その他歯科口腔保健の推進に関する事業

4 留意事項

- (1) 事業の実施内容及び実施方法が他の地域においても応用できるものであり、かつ 普遍性の高いものであること。
- (2) 同一事業の申請は3年を限度とする。
- (3) 事業の成果については、歯科衛生だより、会報、日本歯科衛生士会ホームページ 等に報告できるものであること。
 - また、日本歯科衛生学会学術大会等での発表および学会雑誌への投稿を目指すものであること。
- (4)事業実施にあたり、可能な限り、行政、歯科医師会、教育機関など関係機関および 団体等と連携や協力が得られるものであること。

5 事業実施期間及び交付額

- (1) 原則として、事業は4月1日以降に開始し、翌年2月末日迄に完了すること。
- (2) 申請は各団体1件とし、事業助成件数は予算の範囲内とする。
- (3) 令和4年度の助成交付額は1件につき30万円以内とし、経費支出基準は別紙のとおりとする。

6 申請手続き

- (1)助成金の交付申請を行う団体は、所定の書式に必要事項を記載の上、日本歯科衛生 士会事務局宛に書留郵便、レターパックなど書類の追跡が可能な送付方法により、 期限内に提出する。
 - ① 助成金交付申請書(様式1)
 - ② 予算内訳書(様式2)
- (2) 助成金交付申請書等の提出期限 令和4年3月14日(月)~4月4日(月)(必着)

7 助成団体の選定及び決定

地域歯科衛生活動助成事業審査委員会において審査選定し、理事会にて報告・承認後、 助成団体を決定する。

なお、審査委員会の運営に関して必要な事項は別途定める。

8 助成金の返還

申請内容と異なる事実が生じた場合は、助成金の返還を求める。また、事業が助成交付額より少額で完了した場合は、残額の返還を求める。

9 報告書の提出

- (1) 助成対象事業が完了した時は、所定の書式に必要事項を記載の上、日本歯科衛生 士会事務局宛に書留郵便、レターパックなど書類の追跡が可能な送付方法により、 期限内に提出する。
 - ① 事業報告書(様式3)
 - ② 会計報告書(様式4)
 - ③ 助成対象経費を支払ったことを証明する領収書等(領収書は原本とする)
 - ④ 写真、チラシ、パンフレット等、事業実施を確認する資料
 - ⑤ 提出の事業報告書は、令和4年度地域歯科衛生活動事業助成報告書にとりまとめ、 日本歯科衛生士会ホームページに掲載する。
- (2) 提出期限 令和5年3月10日(金)(必着)

10 申請書及び報告書提出先

公益社団法人日本歯科衛生士会 地域歯科衛生活動助成事業審査委員会宛 〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-11-19

電話 03-3209-8020 E-mail jimukyoku@jdha.or.jp

令和 4 年度地域歯科衛生活動事業助成事業実施報告

令和4年度の事業助成は、令和4年5月7日に審査委員会による審査会を開催し、10団体の活動計画に助成金を交付しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画通りに実施が困難な団体もありましたが、各団体から提出の実施報告書をまとめましたので、今後の事業実施の参考にご活用願います。

令和 4 年度地域歯科衛生活動事業助成交付事業一覧(10 団体)

事業実施期間:令和4年4月1日~令和5年2月28日

※都道府県順に掲載

| No. | 実施団体名 | 助成対象事業 | 実施事業名 | 助成交付支出額 |
|-----|---|--|--|---------------|
| 1 | 北海道 歯科衛生士会 | 【継続2年目】 (9)その他歯科口腔保健 推進事業 | 生涯を通じた口腔健康管理の推進 ならびに歯科衛生士の職業PR事 業 | 300,000円 |
| 2 | 岩手県歯科衛生士会 | 【継続新規】 (7)食育推進事業 | 子どもの食べる力を育む口腔機能 向上普及啓発事業 | 300,000円 |
| 3 | 山形県 歯科衛生士会 | 【継続2年目】 (6)高齢者・要介護高齢 者の歯科口腔保健事業 | 自立支援型ケア会議助言の充実に 向けた支援事業〜通所サービスに おける口腔ケア充実推進事業〜 | 179, 844 円 |
| 4 | 新潟県 歯科衛生士会 | 【継続2年目】 (6)高齢者・要介護高齢 者の歯科口腔保健事業 | 通所介護事業所での口腔機能向上 加算算定導入支援事業 | 79, 865 円 |
| 5 | 和歌山県 歯科衛生士会 | 【継続新規】 (9) その他歯科口腔保健 推進事業 | こども食堂における歯科需要に 関する調査 | 117, 030 円 |
| 6 | 島根県 歯科衛生士会 | 【継続新規】 (9) その他歯科口腔保健 推進事業 | オーラルフレイル予防人材確保 事業 | 300,000円 |
| 7 | 愛媛県 歯科衛生士会 | 【継続新規】 (9) その他歯科口腔保健 推進事業 | 歯科口腔保健による地域支援活動 事業 | 300,000円 |
| 8 | 佐賀県 歯科衛生士会 | 【継続新規】 (9) その他歯科口腔保健 推進事業 | がばい!歯っぴー いい歯の日 | 200, 340 円 |
| 9 | 大分県 歯科衛生士会 | 【継続2年目】 (8)多職種連携・協働に よる歯科口腔保健推進 事業 | 地域包括ケアにおける社会資源と しての口腔ケアステーション設置 事業 | 300,000円 |
| 10 | 特定非営利活動 法人アダプテッ ドスポーツサポ ートセンター | 【単年度新規】 (5)障害(児)者歯科保健 事業 (8)多職種連携・協働に よる歯科口腔保健推進 事業 | 2022 年度 i (アイ)ボッチャ大会 噛む+スポーツで健康長寿を達成 しよう | 228, 820 円 |
| | 10 団体合計 | | | 2, 335, 899 円 |

令和 4 年度 地域歯科衛生活動事業助成交付事業報告(10 団体)

No. 1 北海道歯科衛生士会【継続2年目】

| 110. 1 | 北海坦图科用工工云【雕柳2十日】 | |
|--------|------------------|---------------------------------|
| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人 北海道歯科衛生士会 |
| 2 | 事 業 名 | 生涯を通じた口腔健康管理の推進ならびに歯科衛生士の職業 |
| | | PR 事業 |
| 3 | 実施回数、開催日等 | ・実施日数 2回 |
| | | 第1回目 令和4年6月24日~6月25日 |
| | | 第2回目 令和4年12月4日 |
| | | ・開催会場 札幌市民交流プラザ SCARTS モール |
| 4 | 対象者および参加人数 | ・第1回目 参加者数 213人 |
| | | 第2回目 参加者数 119人 |
| | | ・会員へのチラシ活用希望、意見アンケート実施 回答者 36 人 |
| 5 | 従 事 者 等 | 延 30 人(歯科衛生士) |
| 6 | 事業概要 | ・イベント展示用ポスター、配布チラシの作成 |
| | | ・口腔衛生ポスター、歯科衛生士職業体験ブース設置 |
| | | ・会員に啓発チラシを配布し職場等での活用を勧奨 |
| | | ・ポスターへの意見のアンケート実施 |
| 7 | 得られた効果 | ・お口の健康に関するポスター展示に加え、新たに歯科衛生士職 |
| | | 業体験ブースを設置し、好評であった。 |
| | | ・会員に啓発チラシを配布し、職場等での活用の周知やアンケー |
| | | トの実施により、配布チラシの改善につながった。 |
| 8 | 今後の課題 | ・歯科衛生士の職業 PR では、中高生や若年層の来場者増が課題 |
| | | 次年度は市や教育委員会への後援を検討したい。 |
| | | ・チラシに対するアンケート実施により、改善点が得られた。 |
| | | |

9 【会場の様子、展示物など】







No.2 岩手県歯科衛生士会【継続新規】

| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人岩手県歯科衛生士会 |
|---|------------|-----------------------------------|
| | (共催団体名) | |
| 2 | 事 業 名 | 子どもの食べる力を育む口腔機能向上普及啓発事業 |
| | | |
| 3 | 実施回数、開催日等 | ・検討委員会の開催 2回 |
| | | ・保育園での歯科保健指導の実施(県内2施設) |
| 4 | 対象者および参加人数 | 歯科指導対象者 保育園(2施設) 幼児 53人 保育士8人 |
| | | 普及啓発研修 住民対象オンデマンド配信 (R5.1/6~1/31) |
| | | 再生回数 824 回 アンケート回収数 115 人 |
| 5 | 従 事 者 等 | 延 16 人(歯科衛生士) |
| 6 | 事 業 概 要 | ・検討委員会の開催 2回 (委員会構成員6人) |
| | | ・「お口あそび」を取り入れた保育園での歯科保健指導実施 |
| | | ・「お口あそび」研修情報のオンデマンド配信による普及啓発 |
| 7 | 得られた効果 | ・幼児の「食べる機能としての口」をテーマに歯科保健指導を |
| | | 行うことが可能になり、関心を持つ機会となった。 |
| | | ・また、一般住民への普及啓発を目的としたオンデマンド配信 |
| | | を行ったことにより、多くの方に理解が深まった。 |
| 8 | 今後の課題 | ・口腔機能に視点を置いた指導内容に戸惑う会員もあり、小児 |
| | | の口腔機能を評価し、対応できるような教育・研修が必要で |
| | | ある。 |
| | | ・また、コロナ禍であり園で直接に実施する指導が難しいので |
| | | 「お口あそび」動画を作成し、園への発信を検討する。 |

9 【指導の様子、展示物など】

指導媒体と使用物品



指導風景 準備体操



No.3 山形県歯科衛生士会【継続2年目】

| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人 山形県歯科衛生士会 |
|---|------------|--------------------------------|
| | (共催団体名) | |
| 2 | 事 業 名 | 自立支援型ケア会議助言の充実に向けた支援事業 |
| | | ~通所サービスにおける口腔ケア充実推進事業~ |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 高齢者施設訪問日数 21日(5施設) |
| 4 | 対象者および参加人数 | ・高齢者施設(デイサービス、デイケア事業所対象) |
| | | 5 施設の施設利用者及び介護職員 145 人 |
| 5 | 従事者数等 | ・延 42 人(歯科衛生士 実人数 16 人) |
| | | ・その他の職種 28 人(管理栄養士、介護福祉士、看護師等) |
| 6 | 事 業 概 要 | ・施設で口腔ケアが未実施の原因や改善方法を探るため、食前体 |
| | | 操、食事風景、口腔ケアの流れを見学し、評価した。 |
| | | ・評価を基に職員向け研修会の実施 |
| | | ・管理栄養士が講師の研修会開催(オンライン) |
| 7 | 得られた効果 | ・事業に興味を持った歯科衛生士が増加した。 |
| | | ・利用者が職員と一緒に口腔ケアを行うなど改善がみられた。 |
| | | ・管理栄養士が講師の研修会を開催し、3施設の職員、歯科衛生 |
| | | 士会員が参加し、栄養面の活動にも理解が深まった。 |
| 8 | 今後の課題 | ・コロナ禍であり、施設でクラスターが発生すると訪問が延期や |
| | | 中止となり、計画どおりの活動が難しい状況であった。 |
| | | ・利用者は食後の口腔ケアを希望するものの、施設職員側の準備 |
| | | ができていない施設もあり、浸透に時間がかかる。 |
| | | ・オンライン研修は機器の準備やネット環境に左右されるため |
| | | 研修参加施設が限られた。 |

9 【事業の様子】



洗面所での歯みがきの様子



利用者が自宅から持参した歯ブラシなど

| No. 4 | 新潟県歯科衛生士会【 | 継続2年目】 |
|-------|---|--|
| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人新潟県歯科衛生士会 |
| | (共催団体名) | |
| 2 | 事 業 名 | 通所介護事業所での口腔機能向上加算算定導入支援事業 |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 実施日数 17 日 |
| 4 | 対象者および参加人数 | ・柏崎市内通所介護事業所へのアンケート調査 回答 14 施設 |
| | | ・事業所への聞き取り調査 2施設 |
| 5 | 従事者数等 | 延 26 人(歯科衛生士) |
| 6 | 事 業 概 要 | ・柏崎市内通所介護事業所へのアンケート調査 |
| | | 食事・口腔ケア支援の実態と口腔機能向上加算の有無 |
| | | 調査対象: 25 施設、回答 14 施設 |
| | | ・口腔機能向上加算実施施設への聞き取り調査 |
| | | 2施設実施 |
| | | ※新型コロナウイルス感染症の影響により計画変更あり |
| 7 | 得られた効果 | ・調査結果より、口腔機能向上加算の取組が進まない理由として |
| | | 口腔機能サービスの実施する人材不足、サービス手続きに関す |
| | | る事業所の理解不足があった。 |
| | | ・行政関係職員と連携して事業実施により、地域の要介護高齢者 |
| | | の口腔健康管理の現状や課題が共有できた。 |
| 8 | 今後の課題 | ・口腔機能向上加算の取組の推進には、介護現場での人材確保が |
| | | 課題であるが、口腔機能向上サービスを導入することで、他の |
| | | 施設とは違う特徴、差別化を図る施設もあった。 |
| | | ・介護現場で、活動できる歯科衛生士のスキルアップの継続 |
| | | 実施が必要。 |
| 9 | 【活用した啓発資料】 | |
| | | おり元気で |
| | (お口のお手入れにつ | 一お口のお手入れで スッキリ奥快!~ |
| | ①歯をみかきましょう /・カフランモルをおここ | 鏡に向かってほぼ笑んで |
| | | ステキな英嗣は"口角"を上げてとがボイントです。 |
| | 第と前の間 前と前内の境目 真白のかみ合せ | |
| | ②舌をみがきましょう! | |
| | 医ブラシを舌の角から手前へ 向に動かしお手入れします。 力強くこすったり、汚れを一郎 | =0300 |
| | とそうとすると当を痛めるこ あるので注意しましょう。やさ | and the same of th |
| | 3入れ歯のお手入れは?? | arachus arachus |
| | 入れ他のお手入れ 強水下でヌメリがとれるまで入れ曲用ブラシなどで (保管方法は?) | お口には、「食べて飲み込む」、「誘す」、「表す 大切な役割があります。歯と口の健康を保ぎ |
| | よくこすります。うら何やパネの部分も忘れずにか | |
| | ★の大きのようのであるとは、またいではでは、またいではでは、またいではでは、またいではでは、またいではでは、またいではではでは、またいではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは | #3 <dr.< th=""></dr.<> |
| | バネの部分 入れ着がこむれないように水を辿った 無需要などの上で洗いましょう。 | ゆっくりとよくかむことによって同が刺激を受け、活発に働く 変数を高めます。また、た液の分泌がよくなり、溶剤に働く 生活を送るために、たいへた使わっことは、健康でいきい。 を活を送るために、たいへん重要です。 を活を送るために、たいへん重要です。 |
| | | の収表面の表す。また、た液の分泌が影響を受け、活発に動く 生活を送るために、たい小なで味わらては、健康でい渡りがあったくなり、同り脚での消化・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| | | す。 一種順でいきいきした |
| | | |

No.5 和歌山県歯科衛生士会【継続新規】

| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人和歌山県歯科衛生士会 |
|---|------------|------------------------------------|
| | (共催団体名) | |
| 2 | 事 業 名 | こども食堂における歯科需要に関する調査 |
| 3 | 実施回数、開催日等 | ・こども食堂及びこども食堂利用の保護者への調査 |
| 4 | 対象者および参加人数 | ・調査対象 こども食堂 37 施設 回答 20 施設 |
| | | ・web 調査対象 利用者の保護者 300 人 回答 67 人 |
| 5 | 従事者数等 | 延 20 人(歯科衛生士) |
| 6 | 事業概要 | ・県内のこども食堂を対象に、「こども食堂における歯科保健活 |
| | | 動」の希望調査を実施。 |
| | | ・こども食堂利用の保護者アンケート実施(回答:二次元コード) |
| | | ・歯科衛生士による歯科健康教育実施希望の聞き取り 3施設よ |
| | | り次年度実施希望あり |
| | | ※新型コロナウイルス感染症の影響により計画変更あり |
| 7 | 得られた効果 | ・県内のこども食堂利用者の歯科保健行動の現状が把握できた |
| | | ・運営者の意見を取り入れることにより、次年度継続事業に |
| | | 活かせる調査結果が得られた。 |
| | | ・運営者が Instagram による取組みの紹介により、本歯科衛生 |
| | | 士会の取組みを広く周知できた。 |
| 8 | 今後の課題 | ・今回の調査結果を基に作成予定のリーフレット、指導用媒体 |
| | | ・歯科衛生士が指導を行うことに協力が得られるこども食堂 |
| | | の選定。 |
| | | ・様々な事情を抱える利用者に対し、細やかな対応ができる |
| | | 歯科衛生士の育成。 |

9 【活動の様子】





こども食堂運営者への調査



保護者アンケート(ハブラシ同封)

No. 6 島根県歯科衛生士会【継続新規】

| 110. 0 | 0.0 岛伐东图代用工工会【略视制况】 | | |
|--------|---------------------|------------------------------------|--|
| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人島根県歯科衛生士会 | |
| | (共催団体名) | 後援:一般社団法人グッドネイバーズカンパニー | |
| 2 | 事 業 名 | オーラルフレイル予防人材確保事業 | |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 実施日数 3日(3地区でオーラルフレイル予防教室での活用) | |
| 4 | 対象者および参加人数 | 高齢者の通いの場、認知症カフェ利用者 43人 | |
| 5 | 従事者数等 | 延 26 人(歯科衛生士 24 人、医師 1 名、歯科医師 1 名) | |
| 6 | 事 業 概 要 | ・研修会の開催 計3回(集合1回、web2回) | |
| | | 「まいにち、くちビル」活用方法等について研修会 | |
| | | 講師 グッドネイバーズカンパニー代表 | |
| | | グッドネイバーズカンパニーくちビル認定トレーナー | |
| | | ・教室で活用できる動画を含めた教育媒体の作成 | |
| | | ・オーラルフレイル予防教室での活用(3 地区) | |
| | | ・トライアル実施地区の利用者へのアンケート調査 | |
| 7 | 得られた効果 | 「まいにち、くちビル」を通して、地域住民にオーラフレイル | |
| | | について知識の普及ができ、地域歯科衛生活動に活かせた。 | |
| | | ・経験が十分でない歯科衛生士でも、オーラルフレイル予防や | |
| | | 場づくりについて知識を得、動画やシナリオの作成による支援 | |
| | | で、オーラルフレイル予防教室への参加や今後の教室開催に向 | |
| | | け、前向きに取り組むことができた。また、視覚的な情報は高 | |
| | | 齢者が楽しみながら学習ができ、効果が得られた。 | |
| 8 | 今後の課題 | ・冬期に新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、3地区のみで | |
| | | オーラルフレイル予防教室での活用となったが、今後は県全体 | |
| | | に拡大を図っていきたい。 | |
| | | ・会員外の歯科衛生士も含め、地域で普及啓発できる歯科衛生士 | |
| | | の人材育成や確保につなげたい。 | |
| | | | |

9 【オーラルフレイル予防教室の様子】







参加者 VS 歯科衛生士 「たこちゅ~ダンベル」

No.7 愛媛県歯科衛生士会 【継続新規】

| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人愛媛県歯科衛生士会 |
|---|------------|--------------------------------|
| | (共催団体名) | |
| 2 | 事 業 名 | 歯科口腔保健による地域支援活動事業 |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 実施日数 5日 |
| 4 | 対象者および参加人数 | 歯科衛生士、会議等出席者、施設職員等 計 149 人 |
| 5 | 従 事 者 数 等 | 延12人(歯科衛生士11人、歯科医師1人) |
| 6 | 事 業 概 要 | ・歯科衛生士対象の高齢者の口腔機能管理研修会 |
| | | 参加者:歯科衛生士 65 人 |
| | | ・地域ケア会議、地域密着型サービス事業所運営推進会議出席 |
| | | 2 か所出席 計 23 人 |
| | | 新型コロナウイルス感染症の影響で web に変更、参加者変更 |
| | | ・地域密着サービス事業所入所者への口腔ケア指導の支援 |
| | | ※新型コロナウイルス感染症の影響により入所者でなく |
| | | 施設職員への指導に変更 2 施設 44 人 |
| 7 | 得られた効果 | ・口腔機能低下症の研修を歯科衛生士が受講することで、理解が |
| | | 深まり、多職種への指導を行うことができた。 |
| | | ・地域ケア会議などに出席することで、出席者に歯科衛生士の存 |
| | | 在や口腔衛生管理の重要性についての理解が深まった。 |
| | | ・専門職が指導を行うことで、口腔内を清潔に保つことの重要性 |
| | | が理解された。 |
| 8 | 今後の課題 | ・施設への実践的な指導を継続実施する。自立した高齢者向けの |
| | | 指導を取り入れる。 |
| | | ・運営に関するマニュアルを作成し、歯科衛生士の育成を図る。 |
| | | |

9 【事業実施の様子】



口腔機能低下症研修会



施設職員への口腔ケア指導



施設職員への指導



施設での指導の様子

No. 8 佐賀県歯科衛生士会【継続新規】

| | | No. 11 design to column 1 to c |
|---|------------|--|
| 1 | 事業実施団体名 | 主催:佐賀県歯科衛生士会 |
| | (共催団体名) | 共催: 佐賀県歯科医師会 |
| 2 | 事 業 名 | がばい!歯っぴー・いい歯の日 |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 実施日数 1 日 令和 4 年 11 月 6 日(日)開催 |
| 4 | 対象者および参加人数 | 地域住民(乳幼児から高齢者) |
| 5 | 従事者数等 | 15人 (歯科衛生士 14人、歯科医師 1人) |
| 6 | 事業概要 | いい歯の日の関連事業として、大型商業施設でのイベント開催 ・歯科相談(歯科医師) ・口腔保健指導(歯科衛生士) ・媒体展示、リーフレット作成・配布 |
| 7 | 得られた効果 | ・3年ぶりのイベント開催で地域住民との交流の場となり、歯と口の健康づくりの普及啓発が行えた。また作成したリーフレットを活用し、オーラルフレイル予防等、家庭でも取り組める内容での提案ができ、意識向上に繋がった。 ・会員相互の連携、親睦、達成感が得られた。 |
| 8 | 今後の課題 | ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の内容を変更し体験コーナーを見合わせた内容での実施となったが、今後は、体験やゲームも取り入れることができたらよいと思う。今回の作成リーフレットは歯科保健事業などでも活用を図りたい。 |

9 【イベント開催の様子、啓発リーフレット】



いい歯の日イベント会場



地域住民との個別相談





No.9 大分県歯科衛生士会【継続2年目】

| 1 | 事業実施団体名 | 主催:一般社団法人大分県歯科衛生士会 |
|---|------------|-------------------------------|
| | (共催団体名) | 共催:オレンジカフェ「手をつなごう」 |
| 2 | 事 業 名 | 地域包括ケアにおける社会資源としての口腔ケアステーション |
| | | 設置事業 |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 実施日数 77 日 |
| | | ・実施施設 4か所 |
| 4 | 対象者および参加人数 | オレンジカフェ(認知症カフェ)での口腔健康管理指導及び |
| | | 在宅訪問 計 106人 |
| 5 | 従 事 者 数 等 | 延 78 人(歯科衛生士 78 人) |
| 6 | 事 業 概 要 | ・大分県歯科医師会館内に電話相談窓口として口腔ケアステー |
| | | ションを開設し、必要に応じて他職種と連携して対応した。 |
| | | ・認知症カフェでの口腔健康管理指導 |
| | | • 訪問指導 |
| 7 | 得られた効果 | ・多職種連携・協働による口腔ケアステーションを機能させるこ |
| | | とで、口腔健康管理を普及し、市町村や他職種との連携につな |
| | | がった。地域包括ケアの機能として挙げられる社会資源を創出 |
| | | することで、地域づくりの一助となった。 |
| 8 | 今後の課題 | ・歯科衛生士会を事務局として、相談事業を継続し、口腔ケアス |
| | | テーションの普及啓発活動を重点的に行う。 |
| | | ・口腔に問題のある人を抽出し、必要に応じて多職種と同行し事 |
| | | 前事後の口腔アセスメント作成、口腔健康管理指導を行い、地 |
| | | 域歯科保健の啓発の実践を継続する。 |
| 1 | l = · · | |

9 【口腔ケアステーション、オレンジカフェでの指導の様子】









オレンジカフェでの口腔健康管理指導

No.10 アダプテッドスポーツサポートセンター【単年度新規】

| 1 | 事業実施団体名 | 主催:特定非営利活動法人アダプテッドスポーツサポート |
|---|------------|-------------------------------|
| | (共催団体名) | センター |
| 2 | 事 業 名 | 2022 年度 i (アイ) ボッチャ大会 |
| | | 噛む+スポーツで健康長寿を達成しよう |
| 3 | 実施回数、開催日等 | 実施日数 1日 2022年11月26日(土) |
| | | 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター |
| 4 | 対象者および参加人数 | 健常者・障がい者 合計 164人 |
| 5 | 従事者数等 | 延べ30人 (歯科衛生士3人、歯科医師5人、その他22人) |
| 6 | 事 業 概 要 | 2022 年度の i (アイ) ボッチャ大会に於いて実施 |
| | | ・障がい者の咀嚼機能測定 |
| | | ・噛むことと健康に関する講話(歯科医師) |
| | | ・摂取食品状況、歯科受診についてアンケート調査及び指導 |
| 7 | 得られた効果 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛などで精神的 |
| | | なストレスや身体機能の低下が考えられる。今回はパラスポーツ |
| | | 大会に咀嚼機能測定や健康相談、食支援などを併設して実施し |
| | | 口腔と食、口腔と健康との関連性の普及啓発が行えた。 |
| | | また、歯科衛生士がチームを組んで事業に携わったことは、歯科 |
| | | 衛生士の専門性を発揮する機会として意義深い活動が行えた。 |
| 8 | 今後の課題 | ・次年度は口腔機検査項目の追加、さらに管理栄養士や理学療法 |
| | | 士の配置を行うなど、より細やかな活動を計画したい。 |
| | | ・地域における障がい児者を受け入れる歯科医療機関など、情報 |
| | | 提供に努めたい。 |
| | | |

9 【ボッチャ大会、咀嚼機能測定の様子など】



ボッチャ大会 試合の様子



歯科医師の講話





咀嚼機能測定の様子